

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(令和元年11月解析分)

1 今月のトピックス

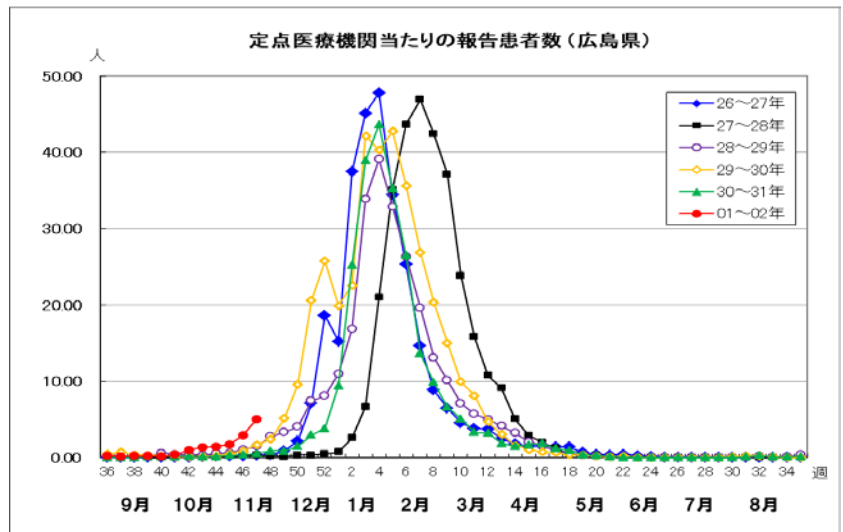
(1)インフルエンザの流行状況について

広島県感染症発生動向調査による令和元年第43週(10月21日から10月27日)の定点医療機関からのインフルエンザ報告患者数が、定点当たり1.36(報告患者数156人)となり、流行の目安としている1.0を上回り、インフルエンザが流行シーズンに入ったと考えられることから、令和元年10月31日(木)、流行入りを県内にお知らせしました。

また、第46週(11月11日から11月17日)の報告患者数が、注意報開始基準値(定点当たり10)を上回ったため、11月22日(金)、県内に注意報を発令しました。

例年、1~2月頃、定点医療機関からの報告患者数がピークを迎える傾向にありますので、次の注意点を参考にいただき、感染予防、流行拡大防止の徹底をお願いします。

最新の発生状況等については、広島県のホームページを御覧ください。



インフルエンザを予防するための注意点

- こまめに、流水と石けんで“手洗い”を励行しましょう。
- 咳エチケットを守りましょう。
 - ・咳・くしゃみの症状がある場合は、人にうつさないためマスクを着用する。
 - ・咳・くしゃみの際は、ハンカチなどで口や鼻を覆い、周りの人から顔をそむけて1m以上離れる。
 - ・鼻汁・痰などを含むティッシュなどは、すぐに蓋付きのゴミ箱に捨てる。
- 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50%~60%)を保ちましょう。
- 人が集まる場所への不必要な外出は避け、出かけるときは、マスクを着用しましょう。
- 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。
特に基礎疾患(腎臓疾患、心臓疾患、呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦、高齢者、乳幼児は、合併症や、重症化の恐れがありますので注意しましょう。



広島県 インフルエンザ 流行

検索

(2)感染性胃腸炎の流行に注意しましょう！！

感染性胃腸炎は、冬季に流行のピークがみられるノロウイルスやロタウイルスなどによる感染症で、「人から人へ感染する場合」と「二次汚染した食品から感染する場合」があります。

特に、ノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があることから、健康被害を受けやすい高齢者施設、保育園や幼稚園などでは、感染予防及び流行拡大防止の徹底をお願いします。最新の発生状況等については、次のホームページを御覧ください。



広島県 感染性胃腸炎 流行

検索

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和元年10月分(令和元年10月7日～令和元年11月3日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	476	1.03	0.22	↑	10	ヘルパンギーナ	102	0.35	0.26	↓
2	RSウイルス感染症	471	1.64	1.66	↓	11	流行性耳下腺炎	25	0.09	0.54	↔
3	咽頭結膜熱	124	0.43	0.30	↔	12	急性出血性結膜炎	4	0.05	0.00	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	330	1.15	1.80	↔	13	流行性角結膜炎	56	0.74	0.86	↔
5	感染性胃腸炎	969	3.36	4.91	↔	14	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	水痘	52	0.18	0.33	↔	15	無菌性髄膜炎	4	0.05	0.01	
7	手足口病	246	0.85	0.96	↔	16	マイコプラズマ肺炎	10	0.12	0.30	↔
8	伝染性紅斑	100	0.35	0.13	↔	17	クラミジア肺炎	2	0.02	0.00	
9	突発性発しん	92	0.32	0.39	↔	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和元年10月分(10月1日～10月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	76	3.30	2.25	↔	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	84	4.00	3.68	↔
20	性器ヘルペスウイルス感染症	24	1.04	0.83	↔	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	0.29	0.42	
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.65	↔	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.04	
22	淋菌感染症	28	1.22	0.74	↔						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)
 ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↔	↔	1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	1:1.1～1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 インフルエンザ (0.19 → 1.03)
 ○急減疾患 RSウイルス感染症 (3.76 → 1.64)
 ヘルパンギーナ (0.79 → 0.35)

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患, 月報対象7疾患)について, 県内178の定点医療機関からの報告を集計し, 作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	37	結核(37)〔西部保健所(8), 西部東保健所(1), 東部保健所(1), 北部保健所(2), 広島市保健所(8), 呉市保健所(7), 福山市保健所(10)〕
三類	9	腸管出血性大腸菌感染症(9)〔西部東保健所(1), 広島市保健所(6), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕
四類	37	つつが虫病(3)〔西部保健所(1), 広島市保健所(2)〕, デング熱(1)〔西部保健所(1)〕, レジオネラ症(6)〔広島市保健所(4), 呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 重症熱性血小板減少症候群(4)〔東部保健所(3), 広島市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(22)〔西部東保健所(2), 東部保健所(10), 北部保健所(1), 呉市保健所(6), 福山市保健所(3)〕, 日本脳炎(1)〔広島市保健所(1)〕
五類	46	アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(6)〔西部保健所(1), 西部東保健所(2), 広島市保健所(1), 呉市保健所(2)〕, バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔西部保健所(1)〕, 急性脳炎(1)〔広島市保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所(2)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔北部保健所(1)〕, 播種性クリプトコックス症(1)〔広島市保健所(1)〕, 破傷風(1)〔福山市保健所(1)〕, 梅毒(8)〔西部保健所(2), 東部保健所(1), 広島市保健所(4), 福山市保健所(1)〕, 百日咳(21)〔西部保健所(1), 西部東保健所(12), 広島市保健所(6), 福山市保健所(2)〕, 風しん(2)〔東部保健所(1), 呉市保健所(1)〕